

平成25年度 岸和田市指定管理者モニタリングチェックシート

1. 基本情報

施設名	岸和田市二の丸広場観光交流センター
所在地	岸和田市岸城町7番22号
指定管理者名	株式会社 本家さぬきや
公募/非公募の別	公募
指定管理期間	10年
指定管理料	なし
施設所管課名	産業振興部観光課

2. 事業報告書の概要

管理業務の実施状況	<p>第三者機関による食材の期限管理、施設衛生管理等の定期検査を実施している。食材の期限管理は本社仕入課が抜き打ち調査を行っているほか、中央微生物検査所と契約し施設検査、食品検査や職員の検便などを定期的実施している。</p> <p>また、緊急時の対策として、危機管理対策室を本部に設置し、その指導並びに組織に基づき防災、防犯、食中毒などに関わる緊急時対策を行っている。</p>
運営業務の実施状況	<p>交流・休憩スペース等を活用し、観光情報の発信や様々なジャンルの演奏会を実施することで市民や観光客等の交流促進を図っている。地元の特産品のPRとして、地元食材を使用したメニューの創作や朝市を開催し、物産スペースにおいては特産品の展示・販売を行っている。誘客事業としては、直営ホテルとの連携による海外客の誘致、岸和田城拳式とのタイアップなどにより集客を図っている。また、市や観光振興協会などの関係団体と連携し、料理体験やダンスイベントなどを企画・開催し集客に努めている。</p>
施設の利用状況	<p>利用者数推移（3カ年分記入してください。） 平成24年5月28日開館</p> <p>平成24年度 飲食利用者：41,573人 物販レジ数：1,035人 演奏会利用者：1,110人 フライダル利用者：44人 平成25年度 飲食利用者：26,388人 物販レジ数：987人 演奏会利用者：3,162人 フライダル利用者：113人 テラス利用者：45,575人 (テラス利用者は25年度から計測)</p>
	<p>入場料収入等推移（3カ年分記入してください。）</p> <p>平成24年度 飲食提供：80,478,025円 物販：1,113,267円 平成25年度 飲食提供：64,888,667円 物販：1,022,639円</p>
	<p>上記推移の理由等</p>
	<p>飲食利用者の落ち込みによる売上げの減少が顕著である。 ただし、交流・休憩スペース（テラス）及び観光情報発信スペースの利用者は増加しており、各種パンフレットを約22,000枚配布している。また、演奏会利用者についても増加しており、設置目的に沿った利用形態となっていることが伺える。</p>

3. 前年度モニタリングの結果を受けての取組み状況

前年度のモニタリング結果を受けて、どのような取組みが実施されたか	<p>観光交流センターは、特定者（飲食を行う者）だけが利用する施設ではなく、市の観光及び文化の振興を図るとともに、憩いの場を提供することにより、地域住民等の交流を図ることを目的に設置された施設である。</p> <p>施設内の観光情報発信スペース及び交流・休憩スペースにおいて、観光施設のパンフレットやまち歩き用のイラストマップ、文化財に関するリーフレット「岸和田史跡めぐりリーフレット」、各種イベントチラシ等を配架し、歴史・文化・観光の情報提供を実施している。また、本市の特産品を展示・販売したり、「歴史街道iセンター」を設置し、関西圏における周遊性の促進を図るインフォメーション施設としての機能を発揮し、観光案内機能の拡充を図っている。</p> <p>誰もが気軽に立ち寄ることができるように案内板を設置するとともに、観光案内人を配置している。スタッフについても、岸和田ボランティアガイドの協力のもと、観光案内に関する研修を実施しており、設置目的に沿った管理運営を行っている。</p> <p>なお、収支予算書、収支決算書の詳細については、指定管理者側の経理担当者から直接聞き取り調査を実施している。</p>
----------------------------------	---

4. モニタリングチェック

総合評価	個別評価・理由・意見等
A	<p>1 履行確認</p> <p>A 法令や協定書等に遵守した管理運営が行われ、事業計画においても計画どおりの取組みがなされている。</p>
	<p>2 サービス水準の確認</p> <p>A 施設入口に観光案内人を配置するなど、一定のサービス水準は保たれているものと考えられる。</p>
	<p>3 事業収支の確認</p> <p>A 指定管理業務に支障をきたす程度のものではないが、予算額と決算額に差が認められることから、中長期的な収支改善策を検討する必要がある。</p>
	<p>総合評価理由・意見等</p>
	<p>積極的な事業展開や情報発信を行うなど、利用者数や利用率向上のための方策を検討していく必要がある。また、誰もが気軽に立ち寄ることができる館の構築を図り、観光交流センターとしての機能を更に高めていくことが重要である。</p>